血液疾患と歩む患者・家族の会
まろまろ
会報 第21号 2012/12/25

● 第6回 まろまろ バス遠足

恒例のバス遠足が10月13日（土）に行われました。
今回は、浅虫水族館を見学の後、青森市の「八甲田憩いの牧場」でバーベキューというコース。いつでも行かれそうだけど、なかなか行っていないのが水族館。お魚とにらめっこしながらひたすら写真を撮る人、子どものようにはしゃいでイルカショーを見学する人、この機会にお子様孝行をする某先生などなど。
そして、水族館の次に立ち寄った浅虫温泉駅の足湯には、とっても癒されました。秋の涼風の中、一度浸かったらもう出たくなくなる、いい湯加減。
お待ちかねのバーベキューは、八甲田山麓の豊かな自然に抱かれ、青森市内が展望できる憩いの牧場。
自称晴れ女のご威光もかげり始めたか、時折降る雨や強風と闘いながらも、よく食べよく飲み。それが いかほどかは、明日の体重計が知っている。一目瞭然。
（なお、一部、野球などに興じ、カロリーの消費に努めた賢明な会員もいたことをお伝えしておきます。）

帰路、あちこちから心地よさげな寝息が聞こえる中、バスは市街に入ったのでした。

写真は2ページ
にもあります →

● 第13回市民公開講座　骨髄移植を知ろう　が開催されました

りんごの収穫が終盤に入った１１月１７日、弘前市で第１３回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」が開催されました。
今回は、「病と生きる患者・家族の心のケア」と題した青森県立保健大学の中村由美子教授の講演の後、まろまろ会員の前田深雪さんと夫の裕さんのお二人が、発病から骨髄移植、そして退院までの苦悩の日々と、様々な人たちに支えられて今がある喜びをお話しされました。
アトラクションは青森山田中学高等学校吹奏楽研究会による「いのちのリレーコンサート」。会場の弘前大学記念会館にはブラスの音が鳴り響きました。
開会あいさつでは、県立中央病院血液内科の久保部長から、「この公開講座がスタートした頃は全国最下位だった本県骨髄ドナーの人口当たり登録者数も、現在は第２１位と骨髄移植に対する関心と理解が広がってきたと感じている」とご挨拶がありました。今後もこの活動が発展的に継続していくようにと、関係者一同、想いを新たにしたのでした。

最後は、まろまろのテーマ曲を吹奏楽研究会をバックに合唱し、閉会しました。

● まろまろ写真館

バス遠足

童心に返って

「足湯と乙女たち」
ガッハッハ

「おもちゃのコンロ」
ではありません！

肉は楽し

煙が向かうのは
「美人」のところ
と云います・・・

おなかいっぱい
たべたよ、ボク

食べた後は、
適度に運動を

骨髄バンク情報（H24年11月末現在）

	全　国	青森県
患者登録者数	1,592人	13人
ドナー登録者数	423,977人	4,438人
対象人口千人あたり	7.05人	6.93人（21位）

ー資料：（財）骨髄移植推進財団 ー

◇ ご寄付いただきました

田澤　清明　様　　**町屋　弥生　様**
中沢　和子　様　　**鍵窪　様**

そのほか、ロビーチェアへの募金も、
たくさんの方々からいただきました。
ありがとうございました。 <(_ _)>

♪♪ ♪♪♪ リレーエッセイ ♪♪♪♪♪　第5走者　高田美香さん（サポーター会員）

第4走者　山村さんからバトンを渡されました、4階西病棟の無菌室に勤務しています高田です。（山村さんからの紹介にかなり照れていますが・・・）
勤務交代で病棟を異動したり、長期研修に出たりしてはいますが、血液内科で働き始めて約16年がたちます。看護師人生の半分以上だ！と、今更ながらびっくりです。

この16年の間に、たくさんの方々と知り合い多くのことを学びました。患者さん、ご家族、治療に携わるさまざまな医療スタッフなどなど。思い出話は山のようにあります。（なんせ長いもので・・・）「今回のエッセイで何を書こう？」と思った時に、頭に浮かんだのは数年前に入院していたある若い男性患者さんのことでした。

彼は20歳前半、2度の移植を受けた後でしたが、あまり体調が良くありませんでした。ある朝、「車の免許を取りにいきたいけど、先生何て言うかなぁ。」と言い出しました。本気で行きたいなら自分で話してみるよう言うと、彼は主治医に直接願い出て教習所へ通う許可をもらったのです。それからはどんなに寒い雪の日でも早起きして教習所へ通い、見事免許証を手にしました。うれしそうに、ちょっぴり誇らしそうに免許証を見せてくれた顔を今でも覚えています。

また、同じ頃に入院していた同年代の患者さんが、心細くて不安になり話がしたいと言った時には、自分の体調が悪いことを悟られないようにして、話し相手になってくれていました。きっと彼は、自分の病気が良くないことを理解し、『今自分ができること、誰かのためにしてあげられること』に一生懸命だったのでしょう。人間としての本当の強さと優しさを教えてもらった気がしています。
この16年、出会いや別れ、楽しかったことや悲しかったこと、いっぱいいっぱいありますが振り返ってみると全部大切な思い出です。これからもひとつひとつの出会いを大切に、頑張っていきたいと思っています。

➡ 次は、私が出会った後輩の中でおそらく1番元気な　飛内那穂子　さんにバトンタッチします。

● まろまろ学習会を開催しました

１１月２４日、県立中央病院血液内科副部長山口公平先生を講師に学習会を開催しました。
今回のテーマは、「骨髄検査って何だろう？」。おそらく好きな患者はいないであろうあの「マルク」ですが、「骨髄検査の手順」から「骨髄検査でわかること」、「それぞれの病気での骨髄検査」など、骨髄検査全般についてわかりやすく説明していただきました。
先生からは、「骨髄検査は血液疾患の治療に当たって非常に重要な検査である」ことや「なるべく苦痛が少なくて済むように心がけている」ことなどのお話があり、参加者一同、マルクが大好きになりました。
とまではいきませんが、大切な検査であることを再認識いたしました。
質疑の時間は、骨髄検査以外にも普段から知りたかったことなども丁寧に教えていただき、楽しく学んだ１時間でした。
また、今回の受講者約３０名のうち、３分の１弱は病棟に入院中の患者さん方でした。ご参加いただき、ありがとうございました。

● まろまろ新年会2013のお知らせ

◇と き
平成25年1月26日（土） 午後6時から

◇ところ
青森国際ホテル　1階カフェ・クッカ
青森市新町１－６－１８　　TEL 017-722-4321

◇会　費
３，８００円

◇お申し込み
同封のハガキでお知らせください。
準備の都合上、**1月15日**までに投函してください。

お問い合せは、090-3019-1540（レク担当：成田）、
または090-9634-6703山本まで。

駐車場あります。
ノンアルコールのビール・カクテルあります。

●「造血幹細胞移植推進法」が成立

９月６日、骨髄移植や末梢血幹細胞移植などの造血幹細胞移植を推進するための法律が国会で成立しました。

増加傾向にある造血幹細胞移植ですが、移植を必要とする患者に、その機会が十分確保されるよう、国として造血幹細胞提供の促進を図る必要性、骨髄バンク・さい帯血バンクの両バンクの業務が適切に行われるための規制や支援の必要性などから法整備されたものです。

● 骨髄バンク・さい帯血バンク 合同全国大会in仙台

９月１５日、仙台市において「骨髄バンク」と「さい帯血バンク」の初めての合同全国大会が開催されました。

大会では「造血幹細胞移植推進法」の成立を受けて「ともに造血幹細胞移植を必要とする人のために」をテーマに、それぞれの活動報告やパネルディスカッション等を通じて、両バンクの今後のあるべき姿を考えました。

● 第1回「がん患者団体等連絡会議」が開催

９月４日に県庁で開催されたこの会議は、がん患者やその家族ががんに負けないように支援するため、「青森県がん・生活習慣病対策課」が開催したものです。まろまろなど９の患者団体と県内６拠点病院のがん相談員などが参加しました。

会議では、県民の皆さんに患者団体の存在を周知するとともに、がんに関する情報を提供していくこととし、平成２５年度にかけて県内３カ所で「がん患者団体等活性化支援フォーラム」を開催することを申し合わせました。

血液疾患と歩む患者・家族の会　まろまろ
＜事務局連絡先＞　青森県立中央病院　血液内科　外来
TEL　017-726-8141　　FAX　017-726-8083
〒030-8553　　青森県青森市東造道2-1-1

県病HP　http://www.aomori-kenbyo.jp/ketsueki
ブログ　http://maromaroaomori.cocolog-nifty.com
Twitter　http://twitter.com/maromaro_aomori